

第2回石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 議事要旨

〔日 時〕：令和7年2月14日（金） 15:00～16:50

〔場 所〕：北海道開発局研修センター 2階 講堂

〔出席者〕：委員71名（WEB出席含む）

1. 基調講演

○講演「JALグループが取り組む生物多様性の保全・回復に向けた取り組み」

日本航空株式会社 ESG推進部長 亀山 和哉様

2. (1) 委員の承認・規約の改正について

○事務局より資料1の説明

- ・事務局提案のとおり、新規委員5名を承認し、令和7年2月14日付で規約が改正された。

2. (2) 企画部会の報告

○事務局より、資料2の説明。

2. (3) 石狩川流域生態系ネットワーク形成に向けた取組状況について

- 事務局より、資料3-1の説明。
- 札幌市より、資料3-2の説明。
- 石狩市より、資料3-3の説明。
- 美唄市より、資料3-4の説明。
- 栗山町より、資料3-5の説明。
- 石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワークより、資料3-6の説明。

2. (4) 石狩川流域生態系ネットワーク全体構想について

○事務局より、資料4-1の説明。

委員 若者が生態系ネットワークの話題に関わっていけるような構図を全体構想の中に盛り込めると良い。

委員 今回の全体構想には、高齢化がより進む中で、地域の方が楽しくかつ元気に暮らせるような活動の幅を拡げるための計画という位置づけもあると思う。現時点で考えることや今後の方向性等があれば、教えていただきたい。

会長 人と人とのつながりや、若い人がコミットをして自然が良くなる姿や成功体験が見えていくことが大事だと思う。

事務局 本協議会とは別にシンボル種ごとの協議会を設立し、生息環境の保全やその生物を活かした環境教育も含め、具体的な取組への支援を行うことを考えている。

委員 河川整備計画の中で進められる環境目標の設定プロセスと、生態系ネットワークの中で目指す環境の検討は、どのような形でつながっていくのか。

事務局 イトウをシンボルとした協議会設立に向けた勉強会の例ではイトウに良い生息・生育環境とか、地域振興への可能性などについて議論しているところであり、今後、気候変動を踏まえた当該河川の整備計画を策定する際にも、イトウを配慮すべき生物種として定量的な環境目標を考えていくといった形で、つなげていきたい。

会長 定量的な環境目標は、生物の生息・生育・繁殖環境としてふさわしい場の保全・創出を目標として設定することになると思うので、生態系ネットワークの形成を図る取組としてつなげていければ良い。

委員 目標の記載が現状に留まっているように読み取れる。各目標時点において、どういった状況にしたいのかわかりにくい。

委員 失敗をしても良いから、やってみようというスタンスが全体構想の中に入っていると、多様な主体の参画を得やすくなる。

会長 全体構想に関する意見への対応については、会長と事務局で整理させていただき、修正版を共有させていただきたい。

会長 実現可能なことを色々検討することが一番大事。活発な活動を期待。

2. (5) 今後の予定について

○事務局より、資料5の説明。

取組先進地域より

委員 JAL とイオンの発意による千歳川流域の取組に長沼町も一緒になって取り組みたい。多くの自治体や企業、団体が参加している本協議会で連携の輪が広がり、石狩川流域全体で生態系ネットワークの取組が盛り上がることを期待している。

委員 イトウを守るためには地元だけでなく、専門家の意見も大変重要。取組を行う上で財源の確保も必要。今後も関係機関が協力し豊かな自然を次世代につなげていきたい。